

大山未来会議報告

ジビックテックを知ろう 「第3回スイッチonだいでせん」

大山町でのこれからの働き方や暮らし方を考える会「スイッチonだいでせん」の3回目を、1月13日に保健福祉センターなわで開催しました。

今回は、市民団地で地域課題の解決に取り組むコミュニティづくり支援やテクノロジーを活用した活動を支援している団体「Code for Japan」の代表理事・関治之さんをお招きし、行政と協力した市民活動の在り方についてお話ししていただきました。

「Code for Japan」の活動

Code for Japanは「共に考え、共につくる」というコンセプトで、行政、市民、クリエイター、デザイナーなど、いろいろなものを作る人の集まりです。

地域住民が生活していて困っていることや「こうあったらいい」というものの中で、IT技術を活用しつつ、自分たちで解消できることを行政と一緒に取り組む活動をしています。こうした活動は、「ジビックテック (civic tech)」と呼ばれています。

「civic」は市民。「tech」は、テクノロジー、科学技術という意味です。

未来会議メンバーから講師・関さんへ質問

Q 関さんが未来会議のメンバーだとしたら、大山町でどんなプロジェクトを試したいと思いますか。

A まちの魅力を対外向けに発信し、町外から人を呼び込むような仕掛けをしてみたいです。そうしたことは、IT技術が役に立つと思います。例えば、観光ガイドに載っていないような情報を語るなどして、それを地図上に落とし込んで、インターネットを通じていつでも情報を得ることができるものを作りたいです。

Q 未来会議はチームごとに活動しています。チームでの活動についてアドバイスをお願いします。

A チームというのは、年齢、職業、生活スタイル、やる気の有無など、多様な人たちの集まりです。こうした中で、うまく活動していくには、みんなの話を聞いて、なるべく意見を対等に出せるようなワークショップの設計をすることが大切です。やる気のない人に対しては、無理にやる気を出させるようなことはしません。

勉強会をさらに重ねて

「スイッチonだいでせん」終了後は、未来会議メンバーの有志が集まり、勉強会を行いました。

今回の勉強会では、未来会議で話し合われた内容をどのように反映させることができるかを共有しました。また、総合計画のテーマについても話し合いました。このテーマにつながる大きなキーワードは「楽しさ」、「つながり」で大きくまとめることができました。今後も、このような勉強会を随時行い、テーマをさらに掘り下げ、内容を絞り込んでいきます。

*未来会議の活動の様子は、フェイスブックで情報発信しています。WEB上で、「大山町未来づくり10年プラン事務局」で検索できます。

◆問い合わせ先

企画情報課・未来づくり戦略室

☎ 0859・54・5202

